

CONTENTS COMBAT

2016.Apr
No.481

4

Cover Design
Favorite Graphics Inc.
Cover Photo
TOMO HASEGAWA
©WORLD PHOTO PRESS 2016

※本文中の価格は消費税込みの
総額表示です。



【第1特集/MGC】

総力特集

008 伝説のトイガンメーカー MGC

010 小林太三 ロング・インタビュー

018 The History of MGC

022 俺たちのマスターピース！
INGRAM M11 / PPK / ショットガン

028 MGCギャラリー

030 MGC伝説
～プロモーション活動の妙～

036 モデルガンのお作法と思い出話

040 MGCモデルガンの魂を受け継ぐメーカー
CRAFT APPLE WORKS

046 MGCが買える店「アングル新宿店」

048 おわりに ～伝説は受け継がれる～

【第2特集/ガン&ミリタリー】

050 ShotShow2016

●Report by Tomo Hasegawa

070 イラク最前線レポート 「シンジャール奪回作戦」

●Report by Toru Yokota

086 NEW GENERATION STYLER

●fujiwara

096 The Equipments of the U.S. Force 【現用米軍装備カタログ】

'90年代陸軍特殊部隊装備PBPV Part.1

●解説:松原隆 ●撮影:山崎 学

106 自衛隊の力こぶ

第一空挺団 降下訓練始め

●取材:菊池雅之

117 Militaria Roundup!

ミリタリー・フライトジャケット Part.3

●解説:菊月俊之

148 世界の名銃対決 銃番勝負

第4回 STI Eagle 5.0 9mm and
INFINITY LIMITED .45ACP

●Text&Photos by Takeo Ishii(Kamiya kikaku.co.,)

【第3特集/トイガン】

076 WESTERN ARMS

PRO TLEII (TFS) SILENCER MODEL

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

081 WESTERN ARMS

GOVERNMENT 緋弾のアリアMODEL AA

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

164 サバゲ三等兵

●by 織本知之

005 COMBAT FRONT LINE

110 トイガンニュース

110 東京マルイ 次世代電動ガン HK416C

111 東京マルイ サムライエッジ・スタンダードモデル
(HIGH GRADE TYPE)

112 WA M4A1 PDW

114 タナカ S&W M500 6.5インチPS

《マグナム・ハンター・バージョン2》

114 タナカ コルト・パイソン4インチ“Rモデル”

《ニッケル・モデル》

115 タナカ コルトSAA .45 5 1/2インチ
“2ndジェネレーション”HW

116 ミリいじ技研

128 PRESENT

146 Fighter's Choice

●Photo & Text Tomo Hasegawa

156 兵装嗜癖

●by Fujiwara

158 Goods & Accessory

162 走って撃って楽しんで サバゲ放浪記 ゆい散歩 其の17 U.S.編Part.2 ●取材:上矢ゆい

170 PROJECT NINJA [Special]

●morizo(東京装備BAKA)

210 進化を続けるタクティカル・アイウェア ESS Crowbar

216 中田商店グッズ

218 S&Grafグッズ

129 GAME OVER THE TOP

132 USシューティングライフ! [特別篇] ●鮫島宗貴

138 読んで覚える TakuのHOW TO Shooting 射撃のススメ

140 トイガンズ・ジャンクション

188 装備エンズー道 ●福田真夫

189 銀座ブレードショー ●环正史

193 バックナンバーリスト

194 ミリタリー・コレクション

196 レア・ミリタリー・コレクション

198 A STITCH IN TIME

199 死ななきゃ食べる! 救荒食指南

200 狩野健一郎のシネマ放浪記

201 狩野健一郎の新作DVD紹介

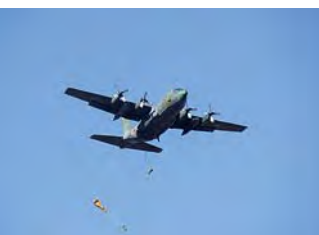
202 MGCスピンオフ ●KEN NOZAWA

204 戦車兵通信 WORLD OF TANKS

206 コンバットマガジン・インフォメーション・センター

207 読者プレゼント応募方法

207 編集後記





伝説のトイガンメーカー

MGC

ModelGuns
Corporation

////// 総力シリーズ 第三弾 //////////////////////////////////////

トイガンを日本に定着させたメーカー、その軌跡

かつてモデルガン、そしてエアソフトガンのメーカーとして一世を風靡したメーカーが存在した。その名もMGC。1960年代に産声をあげ、デザインと機能のすぐれたモデルガンを次々と発表。それだけにとどまらず、オリジナルの直営ショップの展開、メディアを駆使した広報活動で、瞬く間に自社のブランド力のみならず、トイガンの地平を大きく引き上げることに成功した。大胆かつ繊細。時代の波にもまれ、姿を消した今もなお、30余年に及ぶその活躍ぶりは、伝説的に語り継がれてきた。そして、今、当時を知るレポーターたちが、ペールに包まれたMGCの伝説の全貌を、紐解く。MGCの歴史。それは日本のトイガンの歴史そのものだ！

Special Interview



小林太三

ロングインタビュー

天才トイガンデザイナー、 MGCに捧げた半生を語る

インタビュー：くろがね ゆう
Interview by Yuu Kurogane

写真：小林 拓(人物) / 坏 正史(製品)
Photos: Taku Kobayashi & SHOTGUN MARCY

俺たちの MGC



MGCとの運命の出会い

—まず、鉄砲の世界と関わるようになったきっかけを教えてください。

小林太三 (以下、小林) MGCに入る前、大阪のデザイン会社に勤めていたんですよ。そこは元南海電鉄の重役がやっていた会社で、南海電車の線路の下に会社があって、沿線の不動産屋とかデパートとか、そういうところのデザイン関係全部やっていたわけ。グラフィック・デザインもやるしディスプレイもやる。

それで、東宝系の北野劇場ってあって、東宝系や松竹系のコメディアンが出てたんですよ。そこで寸劇をやっていると、当時はウエスタン・ブームだからおもちゃの鉄砲を使うわけ。でも舞台ではおもちゃの花火より大きいものは使っちゃいけないという規制があって、巻き玉を使ってたんですよ。撃つ

たびにニョキニョキと撃ち殻の紙が上に出てくる(笑)。一目で子供のおもちゃとわかるわけ。そこで、大道具や小道具もウチの会社でやってたから、小林、おまえ映画好きで模型好きなら小道具の鉄砲も作れって話になって。それで私物のマテルのリボルバーに、真ちゅうでカートリッジを作って、スタ管(スタート用紙雷管)を使えるようにしたの。そしてそれを貸し出してたわけ。あれがプロとして鉄砲でお金をもらった最初だね。会社も鉄砲のことはよくわからないし、メンテナンかもあって面倒だから、小林、おまえに任せるといって、内職にして、いい小遣い稼ぎになったんだよ(笑)

—今で言うプロップ屋さんですね。それがどうしてMGCと出会うんですか？

小林 中学の頃、日暮里の帽子屋のおじさんのところから学校に通っていた

から、東京の地理には明るかったんですよ。だから大阪時代も1年に何回か、休みがあると東京へ行って、鉄道マニアでもあったから神田の模型店や洋書見て、アメ横でピストル見て、日比谷で映画見てとかやってた。そしたら東京出張があると、小林おまえ行ってこいって話になって。それくらい詳しくあった。でもMGCのことは知らなかったのね。

それがある日、奈良の友だちが『日本モデルガンコレクション協会』の四つ折りペラのカatalogを持ってきたの。そこにはマテルやヒューブレイが載っていて、説明文が付いているんだけど、それが『ヒッチコック・マガジン』や『洋酒天国』のパクリで、コルトとブローニングを混同してたり、スターム・ルガーとドイツのルガーを混同してたり、でたらめだった。ガンブレイのことは「鉄灰色」なんて書いてある。そこで、

間違いを指摘しつつ、就職したいという手紙を書いたのね。

実はこの時、2通、手紙を書いているんですよ。1通はMGCに、1通は日活の撮影所に。鉄砲が映画の仕事をしたかったからね。目立つように、わざと縦書きで左から書いたの。これなら印象に残るだろうってんで。それが1960年(昭和35年)の10月か11月頃かな。そしたら、1961年の1月3日にMGC創業者の神保勉さんがいきなり東京からやってきて『絵が描けるか?』っていうわけ。『描ける』って言ったら、2万円払うから、20日で解説書を作ってくれて。大卒の初任給が1万5千円くらいで、一人前のデザイナーが2万円くらいだったから、あんまりかわらないんだけど、何より東京で仕事をしたかったから、デザイナーをやめて上京しちゃったの。そのあとは、中田商店の中田社長も銀座時代から知ってて、アメ横に店を出

すから来いって言ってくれてたし、自動車も好きだったから和光にあったホンダに行くか、どっちかにしよう。日活からは結局、返事が来なかった。

で、空いた日にアメ横に行って、ホビース商会の遠藤さんという人に、自作した空薬莖が自動的に飛び出すヒューブレイ・カスタムを見せたら、ヒューブレイならいくらでも仕入れてやるから、このカスタムを作ってくれてという話になった。当時、中田商店にヒューブレイを納品していたのはホビース商会だったのね。そうしたらMGCが工具をそろえてやるからウチでやろうって話になって、そのまま居着いちゃった(笑)。

発売されたのがコルト・スペシャルで、スタッグホーン風のグリップが付いて、塗装もはがれにくくなった。めちゃくちゃ売れたね。素材のヒューブレイを納品に来ては、仕上がりを持っ

て帰るといふ具合で、残った分を通販に回してた。

工場を新設して 第1号モデルガンを製造

—それで儲かって、MGCは工場を建てるために埼玉へ引っ越すんですね。

小林 そう。与野とか川口って『キューポラのある街』でも知られるダイカストのメッカだからね。加工屋さん、素材屋さんなんかもそろってるわけ。それに社長の奥さんの実家の芋畑があって、そこを貸してもらえることになったから。ただ、そこはもともと湿地だったから地盤が弱くて、工場の工事は大変だったんだよ。丹下健三さんの息が掛かった山本さんという人が設計した六角形の建物が、なんで道路沿いになかったかって言うと、ひっくり返っちゃうから。奥は地盤が固かったんです。

THE HISTORY of MGC

トイガン文化の一時代を築き上げた伝説のメーカー
栄光の軌跡

MGCはモデルガンという新しいトイガンのジャンルを築き、育て、1つの終焉まで運命を共にした会社だった。その後エアソフトガンでもユニークな商品を発売し大ヒットを飛ばしたものの、かつての栄光を取り戻すことはかなわず、37年ほどでその活動を終了した。

しかし、多くのファンの中でMGCは伝説として残っている。そのMGCが残した業績とは何だったのか。あらためて振り返ってみたい。

文：くろがね ゆう
写真：坂正史 (SHOTGUN MARCY)

1960-63

モデルガン誕生

MGCとはモデル・ガン・コレクションの略で、当初、会社としての正式名称は「日本モデルガンコレクション協会」と言った。のちに「日本MGC協会」となり、さらに「MGC (エム・ジー・シー)」に改められている。

創設は『MGCを作った男』(2010)という自費出版本では1959(昭和34)年10月となっているが、一般には1960年とされることが多い。当初はアメリカ製などの子供向けに銀ビカめっきされた派手派手のピストル型のおもちゃを、ガンブルーっぽい色に塗装して大人向けに売るといったものだった。これを、子供用のおもちゃより模型(モデル)に近いものという意味でモデルガンと名付けたいらしい。

朝鮮戦争(1950~1953年)特需と、その後続く神武景気(1955~1957年)のなごりで、景気が良かった。アメリカの子供用のおもちゃでも、舶来物ということで高かったにも関わらず、大人によく売れた。

MGCは輸入トイガンのカスタムで資金を得ると、それを基によいよオリジナルの製品作りに挑む。そして1962(昭和37)年に発売されたのが、ワルサーVP IIと名付けられた第1号モデル。

これには「前撃針」と呼ばれる画期的な発明(特許)が盛り込まれていた。カートリッジの後部にある雷管を叩いて撃発させる実包とは逆に、「カートリッジの前(薬室の前)にある撃針に衝突させて発火する」方式。前撃針を取り除くと発火できなくなるため、この構造自体がモデルガンの安全機構になっていた。

それまでは、カートリッジとはまったく関係のないところに火薬を詰めるが、カートリッジの底部に火薬を付けて発火させていた。カートリッジの底部に火薬を付けるタイプは後撃針方式と呼ばれ、リアルで評判も良かったが、改造しやすいとして警察から発売禁止にされることもあった。まだモデルガンの定義がハッキリしておらず、MGCも過去に「発禁」をくらっている。そこでそれを教訓とし、以降、安全対策に多いに力を入れていくことになったのだ。



日章ビル2階のボンドショップ内。銃器関係のポスターやブルズアイ・ターゲットを飾るなど、ガン・ショップらしいムード作りに工夫が凝らされていた。



1970年、大阪で開催された「万国博覧会」に日本文化のひとつとしてMGCがブースを構えた。その様子を伝えるビジュアル特別号に、当時のMGCフル・ラインナップ・カタログが折り込まれている。

安全対策と悪用防止

ワルサーVP IIは大ヒットとなり、前撃針方式を使ったモデルガンが、次々と発売された。そして、それらで得た資金を基によりレベルの高いモデルガンを作るため、MGCはヨーロッパとアメリカへ取材旅行に出る。

その後、作られたのが、FN 380だった。初めて実銃を採寸して作られたリアル・サイズで、改造されないようにということで前撃針方式に加えて、独特のブリーチ・ブロックを使った、サブマシンガンのオープン・ボルトのようなメカニズムを組み込んだ。

さらに、超リアルな外観から悪用されるのを防ぐため、MGCは18歳以上限定で、購入者には住民票を提出させるという販売方式を打ち出した。

これにアメ横の販売店からなる「N.K.G.(日本高級玩具組合)」グループが、モデルガンが売れなくなると反発。しかしMGCは譲らず、協力してもらえないところへは製品を卸さないという決定を下したため、訣別は決定的となった。そこでMGCは独自にアメ横へ出店し、自社で販売を始める。一方、N.K.G.グループも独自にモデルガンの設計・製造を始める。

こうして、業界は分裂し、熾烈なモデルガン競走が始まるわけだが、買う側としては選択肢が増えて良かったという人と、どっちも欲しくなって困るという人もいて、反応はさまざま。また、これによりMGC派やCMC派などの派閥もできた。しかし、圧倒的多数派はMGC派で、MGCはリアルなガバメント、ルガーP-08、モーゼルM96、早撃ち向きのコルト・シングル・アクション・アーミー、連射できる指アクションのワルサーP-38(アングル、ミリタリー)、357マグナムなど、名銃を次々とモデルガン化していく。

同時に、定期イベント「ぶっばなせ大会」の開催、そして常設の新宿アクション・ビレッジをオープンするなど、遊び方の提案や遊ぶ場所の提供も積極的に行なっていた。もちろん当時大人気だった早撃ち大会も頻繁に開催している。

ただ売るだけではないのがMGCの特徴だった。周辺の手柄や物にもスポットを当て、アクセサリ類もたくさん発売していた。販売促進がうまかった。しかも映画やTVにもプロップ・ガンを提供するなどして協力し、よくスクリーンやブラウン管でもMGC製品を見かけるようになっていく。広報活動もうまかった。

その上で、MGCは早くからモデルガン法規制の問題に取り組み、悪用防止、安全性の向上といった啓蒙活動にも真剣に取り組んでいた。この点も他メーカーとは異なる部分だった。

1964-68



1969-70

デトネーター方式BLKの発明

1969(昭和44)年、MGCは以前から研究していた、おもちゃの火薬で自動作動するブローバック(BLK)モデルを発売する。今でこそBLKは当たり前になっているが、弾が飛ばないのに、まるで実弾を撃っているかのように作動するわけで、夢のシステムと呼ばれていた。

BLKは、最初は映画やTV用だったが、それをベースに改良を重ね、ついに、当時はスポーツ用品店などで市販されていたスタート用雷管(スタ管、競技用紙雷管)1発で作動するものへと進化し、販売が開始された。それが特許を取得されたデトネーター方式BLK。画期的な発明だった。

最初はシュマイザーMP-40サブマシンガン。ちょっとした調整と、こまめな手入

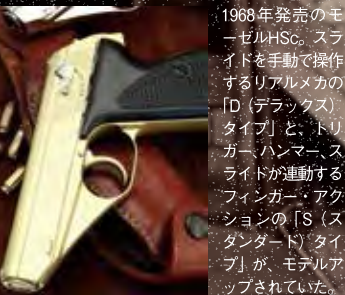
れを怠らなければ、快調にフルオートが楽しめた。まるで本物かと思えるような反動と硝煙。ものスコイ迫力で多くのファンが絶賛した。

MP-40 BLKの成功で、MGCはモデルガンのBLK化に拍車をかける。翌年にはステンMk-III、トンプソンM-1921と怒濤のBLK攻勢。そしてその次の年に初のハンドガン、セミオートBLKとなるベレッタM-1934を発売する。BLKじゃないと売れないような勢いとなり、撃たない人までがBLKモデルを買った。

モデルガンは発火派が主流で、動いてなんぼ、ぶっ放してなんぼだったので、作動性能重視。モデルガンとしてのアレンジはあって当然という風潮だった。



1970年に発売されたブローバック・モデルガン「トンプソン」。1968年のシュマイザー、1970年のステン、に続く第2次世界大戦サブマシンガン(SMG)シリーズの第3弾だった。



1968年発売のモーゼルHSC。スライドを手動で操作するリアルメカの「D(デラックス)タイプ」と、トリガー・ハンマー、スライドが連動するフィンガー・アクションの「S(スタンダード)タイプ」が、モデルアップされていた。



SHOT SHOW 2016

in Las Vegas

世界最大規模の武器見本市、それが“ショットショー”。銃器やハンティング、アウトドアに関する会社が世界中から大集結。新たな都市の始まりに相応しいビッグイベントだ。今年は何年にもないガンガンの新型が多くあったのが印象的。それも従来の

製品に付け足したようなものではなく、新たなコンセプトが感じられる開発品が観られた点が興味深い。そういうメーカーは新製品のデザインはもちろんだが、各ブース装飾の凝り方にも注目。製品開発にセンスを感じさせる会社は、ブースデザイン

も良いもの。製品に限る事なく、いろいろ楽しめるのがショットショーの魅力だ。

昨年、米軍で採用されるM4の製造が、コルト社からFN社へ変更され、驚かされたものだった。それに伴い、やはり気になるのは米軍の制式採用

Photos&Text by TOMO HASEGAWA



イラク最前線レポート シンジャー爾奪回作戦

イラク、シンジャー爾。
イスラム国 (IS) によって制圧された、シリアとの国境から数キロの都市は、IS にとってのシリアの「首都」ラッカと、イラクの「首都」モスルを結ぶ補給路に位置する要衝だ。その地を奪還するために、昨年末、米国やフランスなどの支援を受けながら、ベシュメルガをはじめとするクルド地上部隊による戦闘が行なわれた。現地のリアルな模様を、報道カメラマン、横田徹がレポートする。

レポート：横田 徹 Report by Toru Yokota



●見開き写真：最前線の前哨基地を守備するベシュメルガの兵士 ●上：シンジャー爾市街地から南へ1キロの距離にあるイスラム国支配地域